

未来の現実の人民らへの信仰

地球公会への道

<http://www.jomaca.join-us.jp/michi.pdf>

二〇一三年八月十一日

ヤマト平民会議 山田 学まなび ©

※本書面は、二〇一二年二月に、公開した、〈地球人の規範へ〉を、改題し、更新しました。

諸民族の調和へ、それを仲介させていただく、日本民族。お肚なかの底からの、声とするため、旧かなにて、書かせていただきました。

あへて、民間（諸国家の外）から

日本国は、統治（外交・通商貿易・金融政策・軍事・治安警察）の、自立と強化が、喫緊の課題です。

まづは、それを確認しつつも、あへて、民間（諸国家の外）から、〈地球公会〉も、創つてゆく。すなはち、地球公会への規範（案）を、提唱させていただきます。

ダヴォス会議主催の、世界経済フォーラムなどによる、いびつな地球統制を、克服してまいります。

議会制民主主義の、国民国家も含め、国家は本来、諸部族の闘争、諸民族の闘争を、調整するための組織です。次に、資産階級の闘争を、調整するための組織です。

つまりは、残念ながら、闘争の存在が、前提となつてゐる、組織です。闘争から、調和へ。

諸民族調和と、資産循環。民間からの、これらへの、規範が、地球公会への規範です。民間からこそ、〈まうひとつの公共〉なのです。

つまりは、この数千年間の、諸国家といふ規範からは、無理なく、無駄なく、解脱げだつしてまいります。情念融和のためです。

既成の国家や政治、それらを、しだいしだいに、後述する

学問発達体へ（思考統合の面にて）

生産調和体へ（生体協力の面にて）

道徳共同体へ（情感安定の面にて）

民衆通信へ（情念融和の面にて）

止揚しやうしてまいります。すなはち、既成の国家や政治から、継ぐべき内容は、保存し、とともに、問題な形式は、否定いたします。

さうして、政治解消世論を、結集していきあげます。

根源からの、言論です。

革命でなく、次の社会を、新設いたします。

山田 学は、地球公会への道を、信仰させていただきます。「あの世」や、特定人

格への、信仰でなく、未来の現実の人民らへの、信仰です。

諸国家の政治には、統治と行政が、あります。外交・通商貿易・金融政策・軍事・治安警察といふ統治と、それ以外の政治である行政が、あります。地球公会への道は、まづ、行政を止揚させていただき、最終は、統治も止揚させていただきます。

地球公会への道にて、地球公会(前身)と、そのうちに、各種の協会と、個人々人が、あります。

公会(前身)の資産と記録

協会の資産と記録

個人の資産と記録

があります。公会(前身)のそれらや、協会のそれらを、協同運営します。

協会には、公的な協会と、私的な協会が、あります。

公的な協会は、学問協会、生産協会、道德協会、政治解消協会。

私的な協会は、家庭、同好会、職場。

地球公会への道にて、学問指導部、生産指導部、道德指導部、政治解消指導部が、公的な協会の、それぞれを、思索先導します。思索先導に、自由な、質問と意見と修正案を、調和させます。次の社会への、思索報道です。

地球公会への道にて、民衆指導部が、公的な協会の、すべてを、情念先導します。情念先導に、自由な、反発を、調和させます。次の社会への、情念報道です。

学問を発達させあふ

既成の国家や政治の止揚は、まづ、思考統合の面にて、学問発達体へ、です。

ともかくも、〈眞智〉、すなはち、健康平和な、現実の認識が、望まれます。〈邪智〉、すなはち、病的戦争な、架空の認識は、まづ、たくさんです。

この数千年間は、どの国家に限らず、指導者や運営者と、民衆が、実は、〈邪智〉にて、とりつくるひあふ関係、なのでした。今も、「科学と民主主義の時代」であるからこそ、かへつて、虚偽情報を、意図的に流通させる、情報戦が、蔓延してゐるのです。

地球公会への道にて、まづ、日本社会の民間から、縄文人の、まだ戦争も知らない、純情さを、復興します。〈邪智〉から解脱し、公会(前身)指導部にて、公的協会運営部にて、私的協会にて、個人にて、〈眞智〉を、追究しあひます。さうでない限り、指導者や運営者と、民衆が、調和しません。地球公会への道にて、人間は、〈眞智〉の前、平等なのです。

世界は、あるいは、世界の諸分野は、現象と構造と本質の統一、です。人民ひとりひとりには、それぞれ、さまざまな生活や生産、から、現象の認識や、構造の認識や、本質の認識が、あります。それらを、〈眞智〉(健康平和な、現実の認識、まさにこの立場から、自覚的に、組織していきあふ。つまりは、人民参画にて、〈眞智〉

の学問を、発達させあふ。地球公会への道は、思考統合の面にて、学問発達体へ、です。

民衆は、比較として、現象の認識が、強い。運営者や指導者は、比較として、構造の認識や、本質の認識が、強い。さういふ、役割分担としての、社会組織論なのです。

世界の現実を反映してゐる認識、それが、現実の認識です。世界の現実を反映してゐない認識、それが、架空の認識です。ただし、人間の健康平和にとり、それが架空の認識であると、自覚した、架空の認識は、有益であることも、あります。それは、睡眠中の夢や、覚醒中の芸術内容などにて、あります。

生産を調和させあふ

既成の国家や政治の止揚は、次に、生体協力の面にて、生産調和体へ、です。

人民が、商品などを介しつつも、おたがひの健康平和な生活の道、これをこそ、生産しあふ。これを、労働と生産の目的とする。〈聖愛〉、すなはち、健康平和な、生活協力を、追求しあひます。苦痛の対価としての報酬が、労働の目的ではありません。

貨幣や言語の形式、それにとらはれ、その内容、すなはち、価値や意味といふ社会関係、これを、正しく理解しない。つまり、地球人がおたがひの、労働と認識、これを、正しく理解しあつてゐない。さういふ現状を、反省します。価値とは何か。これを、ひろく深く理解した貨幣へ。意味とは何か。これを、ひろく深く理解した言語へ。さう、変革します。

地球公会への道にて、公会（前身）指導部と、公的協会運営部のもと、私的協会を、自由に、設けます。

生活は、労働と休養の、くりかへしです。

生活の、休養面と、労働面から、家庭、同好会、職場を、あらためて、私的協会、といたしませう。

家庭を、恋愛と出産と保育と教育といふ、特殊な労働、それと、生活の休養面、これらのための、協会とする。

同好会といふ、休養協会を、考へる。職場は、生産性のため、分業労働、分業認識が、避けられない。生体と認識に、偏りが生じ、生理を混乱させる。職場の分業労働、これを修正する、保健的な労働、また、職場の分業認識、これを修正する、保健的な認識、これらのための、休養協会を、同好会として、考へる。

職場を、生活の労働面のための、協会とする。地球人おたがひの、健康平和な生活の道、これをこそ、目的とする、生産調和体。それへ向け、自由に創造してゆく。

家庭、同好会、職場の、毎日。地球の諸域の、毎日。健康平和な生活の道を、求めあひ、健康平和な需要、そして、健康平和な商ひを、発見しつつづける。生産は、

それが、身近でも、商品などはさむ、地球連鎖でも、〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）、これをこそ、めざす。

この五百年間の、資本制生産により、資産階級格差が、拡大しました。これは、〈信用寄付〉により、解決します。〈信用寄付〉とは、地球公会への道にて、次のみに活用されることが、保証されてゐる、寄付です。健康長寿を生産しあふ、流通。野性の復興。諸民族の調和。

資本制生産から、資産循環へ。〈信用寄付〉による、〈寄付込資本〉へ。地球公会への道にて、NPOなどを、発達させます。

今は、希少者の、資産増殖といふ目的に合せ、成立してゐる、地球の供給体制。〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）のため、有効な供給を、開発、拡大させ、無効な供給を、縮小させる。〈信用寄付〉も加へ、やがては、全員の、資産循環といふ目的へ、供給体制を、再編してゆきあひます。

自由の本質は、〈世界対応の自由〉です。人民ひとりひとりが、〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）の、〈学問と技能と規律と体力〉、これを、自分に増す。さうして、〈世界対応の自由〉、これを、拡張していきます。

道徳共同

既成の国家や政治の止揚は、次に、情感安定の面にて、道徳共同体へ、です。

地球公会への道にて、個人が、集団に、埋没してはなりません。自身の体内への注意が、からだところこの健康、こころと社会の平和の、基礎です。

毎日の、四六時中瞬間瞬間、〈聖なる感謝〉にて、生きる。

世界に生かされて、生きる。

〈聖なる感謝〉といふ土台があればこそ、〈眞智〉（健康平和な、現実の認識）にて〈聖愛〉（健康平和な、生活協力）が、可能です。

毎日の、四六時中瞬間瞬間にて、世界は、ありがたいか、ありがたいか、ではない。あへてすべてを、ありがたく受け取る。武道の受け技のやう、〈聖なる感謝〉は、こころの受け技です。

日本は百五十年前、西欧に追ひつけ追ひ超せと、文明開化を、もとめた。その西欧の今、規範・学問・祈り・芸術・養生としては、善・眞・信・美・健としては、むしろ〈文明退化〉してゐませんか。

一万年以上の〈平和な縄文智の記憶〉もある、われら日本民衆、ヤマト平民の、出番でないですか。とくに、子どもを産み育てる、本能として賢い、女性において。

この五百年の、西欧民族主導の近代から、今度は、日本民族主導の超近代へ。迷へるダヴォス会議ではなく、ヤマト平民会議こそを、興します。純情な日本民族の、新時代の誇りです。

全人民にある、健康平和欲求。それを、理性的に、解放させあつてゆきます。

人間の生活にて、苦しみや悩みは、必然なのです。

必然の、苦しみや悩みから、逃げさせる教へも、多いが、それでは、人間の進化が、完成せぬ。必然の、苦しみや悩みこそ、導きの糸。〈聖なる感謝〉しつつ、体内の〈快〉を、求む。〈無〉〓不快が無いを、求む。〈聖なる感謝〉を土台とし〈眞智〉にて〈聖愛〉する。ヤマト平民会議への想ひを、理解でき、参画できる方は、すでに、救はれてゐる。

生活を、六面から、考へます。ひとりひとりが、自身の体内に、注意しあひつつ、六面から、考へる。姿勢動作は、これでよいか…。呼吸は、これでよいか…。食事と排泄は、これでよいか…。人間関係、とくに異性関係は、これでよいか…。精神は、これでよいか…。生活環境は、これでよいか…。体内の〈快〉を、求む。〈無〉〓不快が無いを、求む。かう求めつづける人が、まだまだ少い、今は、世間の言説に、でたらめも多い。世間の言説を、信ぜず、疑はず、自身にて、是非を確認する。冥想生活。求道^{ぐだう}実行。

苦しみや悩みこそを、導きの糸とし、生活を、六面から、修正しつづける。その時なりに、愉しみや悟りにも、接近する。個人の生活修正から、自然に、社会改善に向ふことも、ある。苦しみや悩みと、愉しみや悟りを、くりかへすが、自然な人生…。

冥想生活からこそ、〈諸個人の自立と協同〉は、ある。自身の体内によく注意することからこそ、他者の体内についても、予感できる。やがては、やがては、〈諸民族の自立と協同〉へも、旅立てる。

常に変化してゐる、世界（体内と体外と認識したい）に、〈聖なる感謝〉し、調和して安定することを、くりかへします。

生活修正こそが、保健、求道、修業こそが、すなはち、個性別の、道徳です。地球公会への道は、情感安定の面にて、道徳共同体へ、です。ただし、道徳といふ生活規範は、個々人に、属します。道徳協会の運営にて、可能なのは、道徳そのものでありません。道徳案、道徳の提案のみです。道徳は、他から、おしつけられるものでありません。

民衆通信

既成の国家や政治の止揚は、次に、情念融和の面にて、民衆通信へ、です。

〈眞智〉の、民族学ないし民族地理学も、必須です。

とくに、日本民族の伝統を、反省し、諸民族の調和へ、仲介のあり方を、創造する。

日本民族の特質たる、茶道・華道・書道・芸道・ものづくり道・武道などは、縄文・弥生時代に原点があります。

民族地理学の川喜田二郎師は、KJ法（川喜田二郎法）なる、研究事務の技法

を、創始しました。現場の渾沌のままに、取材を進め、そのばらばらな情報を、ひとつひとつの情念のままに、無理なく無駄なく、融和させてゆき、自身の思ひ込みから解脱しつつ、〈眞智〉の秩序を発想する。伝統から創造への、技法でもあります。一方、創造のための、熟議と、それを促進する、新たなICT（情報通信技術）が、ほしいです。地球公会への道にて、今までのSNSなどはまた別の、ICT開発こそが、必要です。非難しあふのでなく、〈調和追求協同思索法〉の開発です。（これはまた、話題のIoTやARやロボットなども、別の道です。）

さらに、ICTの新しい分野である、ウェブ・スリーを、ひとりの本質的なエンジニア（中島 聡^{あきとし}氏）が、検討したところ、どうも、地球公会への道にて、まさに民間からの、〈まっひとつの公共〉こそ、活用しやすいやうです。

ブロックチェーンといふ技術を土台とする、ウェブ・スリーは、次の特徴があると、中島氏が、抽出されました。

だれにでも情報にアクセスできる、透明性。
管理者がみなくても動き続ける、永続性。

「スマートコントラクト」の自動処理による、厳密性。

地球公会への道は、情念融和の面にて、民衆通信へ、です。今のところ注目すべき点について、記しました。

望み

既成の国家や政治、それらを、しだいに、

学問発達体へ（思考統合の面にて）

生産調和体へ（生体協力の面にて）

道徳共同体へ（情感安定の面にて）

民衆通信へ（情念融和の面にて）

止揚してまいります。

人民の、思考と生体と情感と情念。

それが、認識表現（学問協会）、生産（生産協会）、規範（道徳協会ないし政治解消協会）にて、協同します。

人民と、地球社会が、調和します。

数千年来の、人間の望みが、実現してゆく時機です。未来の現実への信仰です。

〈眞智にて聖愛〉の、規範と学問と祈りと芸術と養生。つまり、善と眞と信と美と健。その中心網たる、本格のICTと都市団を、地球に、創りてまいります。

地球公会への道にて、公会（前身）指導部や、公的協会運営部は、公僕として、人民に奉仕します。ただし、公僕が、あなたのためにできる〈こと〉。そののみを、問はないください。あなたのはうから、地球公会への道のために、できる〈こと〉。それこそ、問ってください。